
平成30年度後志教育研修センター 調査研究事業報告会

学習指導調査研究委員会



平成31年1月9日

於：後志教育研修センター

本報告の骨子

I. 研究の概要

II. 研究の柱とその内容

III. 今後の研究活動方針

1. 研究の概要

(1) 主題設定に関わる社会的背景

(2) 2020年の教育改革

(3) 研究主題と研究の方向性

(1) 主題設定に関わる社会的背景

① 今後の職業のあり方に関する予測から

2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、
大学卒業後、今は存在していない職業に就くだろう。

—— ニューヨーク市立大学大学院センター教授キャシー・デビッドソン氏

今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される
可能性が高い。

—— オックスフォード大学准教授マイケル・オズボーン氏

2045年には人工知能が人類を越える『シンギュラリティ』に
到達する。

—— アメリカ人発明家レイ・カーツワイル氏

(1) 主題設定に関わる社会的背景

② 「これまで」と「これから」

大量生産・大量消費の時代 【1から100を作り出す力】

れ

を元に与えられた問題を効率よく解く。

解のない時代 【0から1を
創り出す力】

→意見の異なる人たちが協働し、問題を見いだ

し、より妥当な考え（妥当解）を導き出して

解決する。

(1) 主題設定に関わる社会的背景

③ 「これから」の社会を創る4要素

(1) 思考の方法

創造性とイノベーション
批判的思考、問題解決、意思決定
学び方の学習、メタ認知

(2) 働く方法

コミュニケーション
コラボレーション (チームワーク)

(3) 働くためのツール

情報リテラシー
ICTリテラシー

(4) 世界の中で生きる

地域とグローバルのよい市民であること
人生のキャリア発達
個人の責任と社会的責任

(2) 2020年の教育改革

① 変化の激しい時代を生きる子どもたち

- ◇ 知識をたくさん覚えているだけでは通用しない。
- ◇ 子どもたちが答えを見つけたり、問題点を発見したり、グループでコミュニケーションしながら解決方法を共有し、知識を再構築していくプロセスが大切になる。



何かを知っている⇒何かができる



学習指導要領「資質・能力の育成」

(2) 2020年の教育改革

② 学校教育が変わる

◇ 未来を生きる子どもたちに

「どのような力（資質・能力）を身につけるのか」

「何ができるようになるのか」

まで踏み込んで求める教育へ

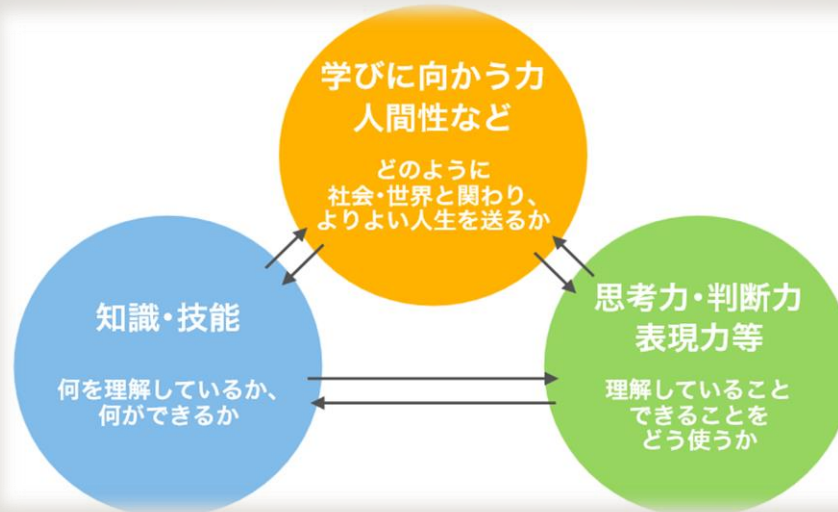
「学んだことをきちんと理解してるか（知識・技能）」
の評価が大きなウェイトを占めていた



知識や技能を習得するだけでなく、それをもとに
「自分で考え、表現し、判断し、実際の社会で役立つ」
ことが求められる

(2) 2020年の教育改革

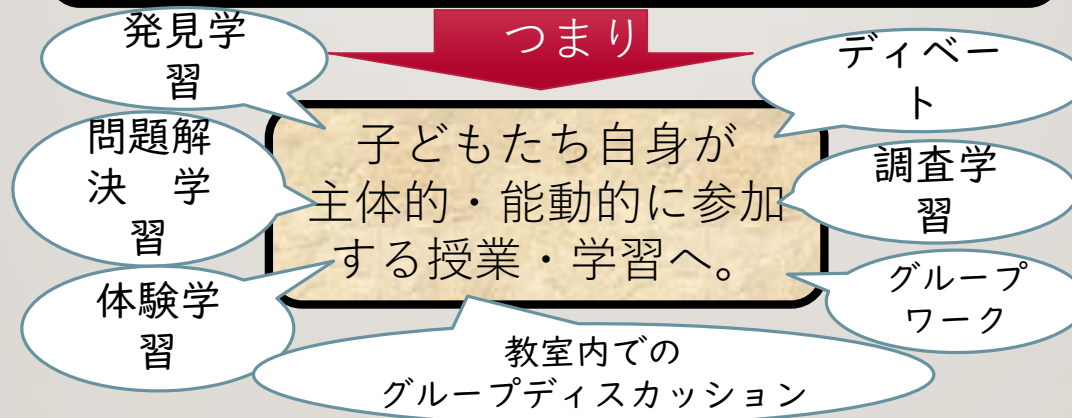
③ 「資質・能力の育成」3つの柱



(2) 2020年の教育改革

④資質・能力を身につけるため「学び」とは

「主体的・対話的で深い学び」
を取り入れた授業の実施



(3) 研究主題と研究の方向

性
授業力の向上 と 校内研究の活性化 に関わる支援の在り方
~対話的な学びのある授業づくりの促進を通して~

- 複雑で予測困難な時代に対応可能な、「主体的・対話的で深い学び」の展開
- 組織的に校内研究に取り組む風土や学校文化の創造

II. 研究の柱とその内容

(1) 研究の柱について

(2) 今年度の検証授業について

(3) 今年度の研修講座について

(4) 校内研修のパッケージ化について

(1)研究の柱について

授業力の向上

校内研修の活性化

検証授業

①校内研究の推進
②学習指導（授業づくり、授業改善）

研修講座

①短時間で可能な校内研修の提案

校内研修の
パッケージ化

(2)今年度の検証授業について

センター所員所属校での3本の検証授業

検証授業



①9月21日（金）倶知安町
立西小学校樺山分校6年



②10月11日（木）京極町立京極中学校2年
保健体育科 単元名「バレーボール」

授業者 本間 拓喜 教諭



③11月8日（木）黒松内町立黒松内小学校3年
国語科 単元名「せつめいのくふうについて話し合おう」

授業者 高橋 沙織 教諭

検証授業① 9月21日 樺山分校 橋谷 紘彰 教諭

本時の展開

本時の目標 (6/8)

(数学的な考え方) 部分どうしの比がわかっているときに、全体の数量から部分の数量を比をつかかって求める方法を考えることができる。

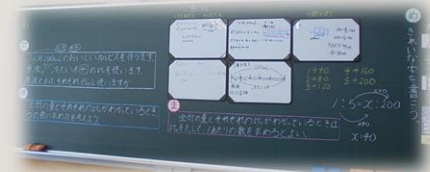
流れ	学習活動	教師の整頓・指示	児童の反応	手立てや留意点	立評語
つかむ	1 前時の振り返りをする。			○(ア)	
	2 問題を知らせ。 1人分200mLのおいしいカルピスを作ります。 「原糖1：水たい水4」の比を使います。原糖と水は、それぞれ何mLずつ必要ですか。		○前の時間で勉強したこと、どんなところが難しいか？ ◆2つの数がわからない。 ◆全部の数が分かっていない。	○これまでの問題との違いを確認する。 ○適切な支援が必要な場合は、問題文の内容理解ができるよう支援する。	○全員が問題文に書かれている内容を理解できるように、実物を用意する。
	3 本時の課題をつかむ。 全体の量とそれぞれの比がわかっているとき、2つの量の求め方を考えよう。				
	4 見通しをもつ。 ◆また線分図を描けばできる。 ◆前に勉強した計算のしかたを使えばできるよ。			○前時で取り組んだことを再度振り返る。	
考えのよさを伝える	5 各自で考える。 ◆リットルを使って考えました。 原糖は1Lなので、 $200 \times 1/5 = 40$ 水は4Lなので $200 \times 4/5 = 160$ ◆考え方は同じだったけど、私は数直線でも表したよ。 ◆ばくは、比の計算をしてみました。全体は、 $1 + 4 = 5$ 。 「 $1 : 5 = X : 200$ 」だから、原糖は40mL、水は、 $200 - 40 = 160$ mLになる。			○(ウ)、(エ)	☆【数学的な考え方】 部分どうしの比がわかっているときに、全体の数量から部分の数量の求め方を考えている。(ノート)
	6 ホワイトボードに考えを書き、黒板に貼る				
	7 互いの考えを交換する。			○(オ)	
まとめ	8 答えの確認をする。 9 本時のまとめをする。 全体の量とそれぞれの比がわかっているときは、全体の比をもとにして考えると2つの数がわかる。				
	10 適用問題に取り組み 11 本時の確認をする。			○図や式、言葉などを用いて、考え方を書かせる。	



ペア交流による前時学習の想起



校内統一のノート作り



問題・課題・児童の思考・まとめ

検証授業①

9月21日 樺山分校 橋谷 紘彰 教諭



検証授業後の話し合いより

◎単元構成について

- 単元を通しての解決意欲が持てる構成が必要ではないか。

◎授業の流れについて

- 主体的な学びにつながる前時の振り返りや本時の見通しを持つ活動ができていた。
- 思考を促す「ゆさぶり」や「しかけ」が必要だったのではないか。
- 本時の終わりに児童が活動を振り返る場面が必要だったのではないか。

◎交流場面について

- 目的を明確にした小集団交流が必要ではないか。
- 多様な考えを引き出す流れが必要だったのではないか。

検証授業②

10月11日 京極中学校 本間 拓喜 教諭

10月11日 (9/9時間目)			
時	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導
導入	・準備運動 ・集合・挨拶	・体育専門委員が中心となり準備準備運動を行う。 ・4列縦隊で整列する。	・安全への指導を行う。 ・本時の内容を伝える。
	【学習課題】 チームの作戦をゲームに生かそう！		
展開	・本時の学習課題確認	・学習課題について確認する。	・本時の課題を伝える。
	チーム作戦会議「チームの作戦を確認し前時の反省をゲームに生かす」		
	①チーム作戦会議（3分） ②円陣パス練習（2分） ③ミニゲーム5分（N1コート） 【特別ルール】 ・何度でも触れてよい ・セッターはキャッチ係 ・セッターはローしなくてよい ④ゲーム（バレーコート） ○アタック・ブロックの得点は2点（女子は3点） ○5分間 2試合	①チームの作戦を考える ②4チームで練習する。 ③バドミントンコート2面で、ミニゲームを行う。 ・ポジションやフォーメーションの練習を行う。 ・バドネットを片付ける。 ④勝つことだけを目的とするのではなくゲームの内容やチームで協力してプレーすることを大切にする。 ・待機チームは観望、得点、作戦会議。	①前時の課題を確認させ、本時の作戦につなげられるよう促す。 ②積極的にボールをつなげられるよう声がけをする。 ③3段攻撃が成立するようポジションやフォーメーションのアドバイスを ④主審を行いルールに準じたゲームができるよう指導する。
まとめ	・用具等の片付け ・本時の振り返り ・怪我等の確認 ・挨拶	・全員で協力して片付ける。 ・本時の学習活動を振り返る。 ・本時の学習の全体的反省と次時の内容について説明を聞く。	・全員で協力して片付けるよう指導する。 ・次時に向けて意欲を持てるように反省させる。



チームによる前時を活かした作戦会議



ゲームによる作戦の実践と検証

検証授業②

10月11日 京極中学校 本間 拓喜 教諭



検証授業後の話し合いよ

り

◎単元構成について

- 単元の中で対話場面をどの時間に設定するかなど、効果的な単元計画の構築が必要だったのではないか。

◎授業の流れについて

- 生徒の実態に応じたルール設定で進めており、主体的に活動できていた。
- 教師からの肯定的な声かけが授業全体を通して行われていた。
- ゲームを参観しているチームの役割を設定してもよかったのではないか。

◎交流場面について

- チームの作戦をゲームに活用する流れがあり、交流の目的が明確であった。

検証授業③

11月8日 黒松内小学校 高橋 沙織 教諭

7. 本時について。

(1) 本時の目標

- ・中心となる解や式を捉えて、解答相互の関係を考えながら読むことができる。

(2) 本時の展開

主な学習活動	評価指標と方法、教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> ○前時のふりかえり【ペア交流】 ○学習指導書から本時のめあてを確認する。 □分かりやすい文章のコツを見つけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「説明上手」になるために、「すがたをかえる大豆」の書き方を読み取っていることを確認させ、本時のめあてにつなげていく。
<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返って、分かりやすい文章のコツを確認する。【全体交流】 ・「次に」「また」「さらに」があるから分かりやすい。 ・「一事分かりやすいのは」とあるから、言葉な物から順番に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示物によるふりかえりを行う。【数直線】
<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすい文章のコツを使って、教師の例文を並べ替えて、分かりやすい文章に直す。【全体交流】 ・「くふう」が一番きれいになる。 ・「ごはん」の説明が次だ。 ○他の解答の例文を並べ替えて、分かりやすい文章に直す。【グループ交流】 ・解答の順番は具体的な物だ。 ○解答の順番について考える。【グループ交流→全体交流】 ・言葉な物から次に具体的な物の説明の順番だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板上で全解答を並べ替える。 ・中心となる解や式を捉えて解答相互の関係を考えながら読んでいる。【書き】 ・各グループのホワイトボードを回り、確認する。違いがあった場合、「分かりやすい文章のコツ」をふりかえり。
<ul style="list-style-type: none"> ○本時のまとめをする。 □分かりやすい文章のコツは ①中心となる文は、一番きれいを書く。 ②くふうがかんたんな物からしゅん事に書く。 ③言葉な物を使う。 ④「一事分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」を使ってしゅん事に気をつけて書く。 ・ワークシートに例文の順序を貼る。 ○自己評価をする。 ○次時の見直しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの言葉でまとめができるように、確認していく。 ・次節から自分の調べたい食べ物について、今日羊んだコツを使いながら文章を書いていくことを知らせる。



全体交流後の、グループによる操作を伴う交流



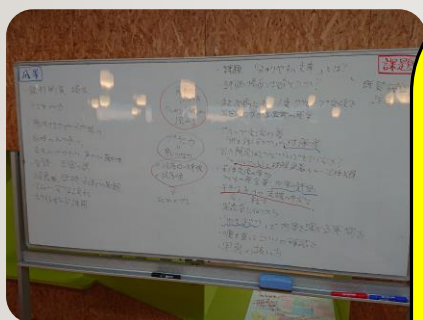
黒板を使っての全グループの交流結果の確認



写真を使うことによるまとめの深まり

検証授業③

11月8日 黒松内小学校 高橋 沙織 教諭



◎単元構成について

- 自分の活動と結びつける意識を高める単元構成が必要だったのではないか。

◎授業の流れについて

- 丁寧な前時の振り返りによる、本時の見通しを持つ活動ができており児童が主体的に活動していた。

- 思考を深めるための「ゆさぶる」発問が必要だったのではないか。

◎交流場面について

- ホワイトボードを使っての協働でのグループ活動は効果的であった。
(個の思考→操作による表現への置き換え)

- 「何を話し合うのか」の個の理解の差を埋める手立てが必要だったのではないか。

(2)今年度の検証授業について

3本の検証授業を通して

①単元構成について

→単元を通して「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識した構成の必要性。

→目指すゴール地点（どんな力が身につき、何ができるよう

②授業の流れ（なるのか）について

→思考を促す・深める「しかけ」「ゆさぶり」の設定。

→対話のタイミングとアウトプットの重要性。

③交流について

→目的ではなく、手段としての交流の位置付け。

→「対話的な授業」のための手段ではない。

(2)今年度の検証授業について 次年度に向けて

○3本の実践を通して見えてきた課題

①単元構成について

②授業の流れについて

③交流について

の3点について具体的な発信を目指していく。



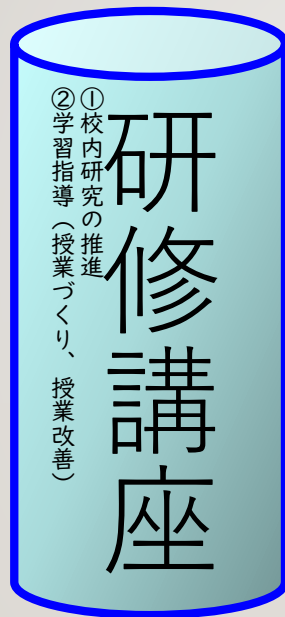
当センターでは、

●**授業の流れ、価値のある対話、子どもの反応を想定した
指導案と単元構成の提示。**

を行い、検証授業における所員の観察グループ決定による
「子どもの思考」が見える発言・表現の見取りから検証を
深めていく。

(2)今年度の研修講座について

後志教育研修センターでの研修講



①6月 6日（水）

研修講座「学習指導（授業づくり）」

対象：初任段階層（1～5年の経験年数）

②6月13日（水）

研修講座「校内研修」


対象：分掌チーフ・ミドルリーダー層、研究担当者

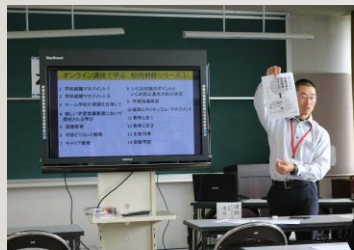
③8月29日（水）

研修講座「学習指導（授業改善）」

対象：分掌チーフ・ミドルリーダー層（5年程度～）

②6月13日 研修講座「校内研修」演習Ⅰ

独立行政法人教職員支援機構 「National Institute for School Teachers and Staff Development」 「NITS」 	オンライン講座で学ぶ 校内研修シリーズ①	オンライン講座で学ぶ 校内研修シリーズ②	オンライン講座で学ぶ 校内研修シリーズ③
	1 学校組織マネジメントⅠ 2 学校組織マネジメントⅡ 3 チーム学校の実践を目指して 4 個人学習指導要領において期待される学び 5 道徳教育 6 学校ビジョンと戦略 7 キャリア教育 8 しじみ学習のポイントと いしめ部活基本方針の策定 9 学習指導要領 10 個別化カリキュラム・マネジメント 11 教育と法Ⅰ 12 教育と法Ⅱ 13 生徒指導 14 自殺予防	15 教育相談に関する マネジメントの推進 16 人材育成とコーチング 17 特別支援教育の実践 18 総合的に学ぶの時間と カリキュラム・マネジメント 19 学校組織マネジメントⅢ 20 特別支援教育総論 21 カリキュラム・マネジメントⅡⅢ 22 生活安全 23 道徳科の授業の充実を図るために 24 「地域に開かれた学校」から 「地域とともある学校」へ 25 「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けて 26 災害安全 27 保健教育の基礎 28 幼児教育 29 学校全体で取り組む食育の進め方	30 人権教育 31 教職員のメンタルヘルス・ マネジメント 32 学校安全(総論) 33 研修の企画・運営・評価 34 新学習指導要領を具現化 した新教材の開設 35 言語活動 36 外国人児童生徒等に対する 日本語指導 37 学校教育の情報化 38 体力向上マネジメント 39 教育と法Ⅲ 40 教育と法Ⅳ 41 キャリア教育の実践 42 消費者教育



校内研修への活用例

校内研修を1回60分と想定

20分 40分

講義動画 ▶ 演習 ▶ 発表 ▶ まとめ

校内研修への活用例

講義動画 ▶

- 「研究課題」の設定
- 「研究仮説」の設定
- 「手立て」の設定
- 「指導案」の検討
- 「研究協議」の視点
- 「一般研修」の題材 等活用

演習Ⅰでは、校内研修のパッケージ化の1つの提案として、独立行政法人教職員支援機構「NITS」で行うオンライン研修について紹介し、実際に、オンライン講義から演習を含めた60分の体験をしていただきました。

②6月13日 研修講座「校内研修」 講義Ⅱ・演習Ⅱ

【演習】 自校の研究推進にかかわる交流

▶ 交流の流れ (KJ法を活用)

- ① 研修推進にかかわる取組のよい点や効果的だった点を青の付箋紙に記入する (個人5分)
- ② 研修推進に関わったの課題や悩みをピンクの付箋紙に記入 (個人5分)
- ③ それぞれが書き出した、手立てを書いた付箋紙を横断紙上に交互に提示し合う。分籍・整理してまとまりごとに太いペンで囲み、小見出しをつける。(20分)
- ④ 効果的な取組組みを更に改良する手立て、課題を改善する手立てを黄色い付箋紙に記入 (5分)
- ⑤ ③と④と同じ手順。最後に順番を線で結ぶ。(10分)
- ⑥ 学校に戻ってからまずやってみたいことを書く。(3分)
- ⑦ グループ発表 (各組2分)

⑤1人ずつ説明しながら付箋を貼ります。
その際似たものを分類整理していきます。
見出しもつけます。

校内研修推進のよさと課題の改善策

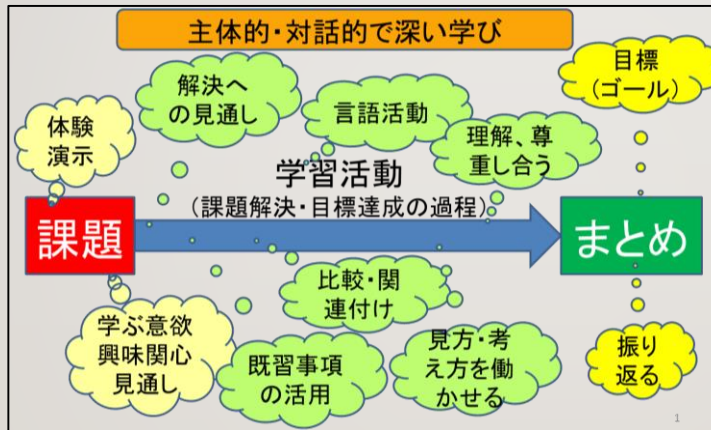
The diagram illustrates a cyclical process for school research promotion. It begins with '校内研究推進' (School Research Promotion) and '連携推進の方法' (Communication Methods). From these, 'よい点' (Good Points) and '課題' (Challenges) are identified. These points are then used to develop '改善策' (Improvement Strategies) for '小集団活動' (Small Group Activities) and '連携推進の方法' (Communication Methods). The diagram shows a flow from the initial state to the identification of points and challenges, and then to the implementation of improvement strategies, which in turn feeds back into the communication methods and school research promotion.



講義Ⅱ・演習Ⅱでは、「自校の研究推進にかかわる交流」をKJ法を活用し
行い、校内研究を充実させるための提案をさせていただきました。

①6月6日 研修講座「学習指導」(授業づくり)

単位時間の授業づくり



明確な
課題設定

効果的な
学習活動を
位置づける

①6月6日 研修講座「学習指導」(授業づくり)

なぜ、単元の指導計画が必要か？

- ①単元を通して子どもに身につけさせたい事項を明確にするため。 ⇒単元の目標(指導目標)
- ②育成させたい資質・能力について、単元を通してバランスよく学習活動を位置づけるため。
⇒学習活動(言語活動、主体的・対話的・深い学び)の位置づけ、評価基準の位置づけ
- ③学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標達成に必要な内容を組織的に配列していくため。 ⇒カリキュラム・マネジメント
(例)言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力

①6月6日 研修講座「学習指導」(授業づくり)

授業実践

黒川小学校

7 本時の展開

子どもの活動・成果

児童までの道のり(時間)	道のり(km)	時間(分)
A君	2	20
B君	3	20
C君	2	15

教師の支援・評価

- 道のりが同じであれば時間で比較すればよいこと、時間が同じであれば道のりで考えればよいことを確認する。
- ペア交換を通して、問題を明確にしているよう思考を促す。

本時の展開

道のりも時間も違うときの速さの比べ方を考えよう。

問題解決の経過

道のりをそろえて考えてみるよ。 → 1あたりを求めるには、わり算で考えればよいから。

時間をそろえて考えてみるよ。 → 1分あたりの速さを求めよう。

キーワード「あたり」に着目させる!!

自力解決から全体交流へ

<1分あたりの道のり比べ>
より $2 \div 20 = 0.1$
ゆうた $3 \div 20 = 0.15$
→ 1分あたりの道のりが長いから、ゆうたの方が速い。

<1kmあたりの時間比べ>
より $20 \div 2 = 10$
ゆうた $20 \div 3 = 6.66$
→ 1kmあたりの時間が短いから、ゆうたの方が速い。

まとめ

キーワードを意識してまとめさせたい!!

本時のまとめ
速さは、1分あたりの道のりや、1kmあたりの時間では比べることができる。

問題解決

4kmの道のりを5分間で走るより、4kmの道のりを2分間で走る速さがあります。どちらが速いでしょう。

時間と道のりのどちらかをそろえて考えてみるよ。 → 1分あたりで考えてみるよ。

振り返り(ペア交換)



授業の流れの定型
小集団交流の活用

課題意識の持たせ方とまとめとの整合性

③ 8月29日 研修講座「学習指導」（授業改善）

講義1
 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

主体的・対話的で深い学びとはどのような子どもの姿かを捉えることが大

主体的な子どもの姿

- 関心や興味を高める ○見通しをもつ ○自分と結びつける
- 粘り強く取り組む ○振り返って次につなげる・自覚する

など

対話的な子どもの姿

- 互いの考えを比較する ○多様な情報を収集する
- 思考を表現に置き換える ○多様な手段で表現（説明）する
- 共に考えを創り上げる ○協働して課題解決する

など

深い学びをしている子どもの姿

- 思考して問い続ける（課題を発見する）
- 解決の方向性を見いだす ○思考し解決する
- 知識・技能を習得する ○知識・技能を活用する
- 知識や技能を概念化・構造化する
- 自分の思いや考えと結びつける

など

興味や関心を高める	見通しを持つ
自分と結び付ける	粘り強く取り組む
振り返って次へつなげる	互いの考えを比較する
多様な情報を収集する	思考を表現に置き換える
多様な手段で説明する	先哲の考えを手がかりとする
共に考えを創り上げる	協働して課題解決する
思考して問い続ける	知識・技能を習得する
知識・技能を活用する	自分の思いや考えと結び付ける
知識や技能を概念化する	自分の考えを形成する
新たなものを創り上げる	

③ 8月29日 研修講座「学習指導」 (授業改善) 授業実践

8. 本時	
(1) 目標	
●差別をなくすためにどのような努力が行われており、自分には何ができるか考え、分かりやすく表現する。 【社会的な思考・判断・表現】	
(2) 展開	
導入 10	<p>学習活動・内容</p> <p>○一日あたりの男性の育児時間の国際比較、日本の男女の育児取得率のグラフを見せ、何を示しているか考えさせる。</p> <p>○育児時間が国際的に見て少なく、男性の育児取得率も約3%であることを確認する。</p> <p>●教師の支援◎見方・考え方◆評価規準</p> <p>●グラフ資料の提示。</p> <p>◎比較・関連「諸外国」「男性と女性」</p>
展開	<p>なぜ男性は育児に係る割合が少ないのだろう</p> <p>○教科書の「女性の年齢別の働いている割合」、「男女の年齢別賃金」のグラフから、日本の女性をめぐる社会的な状況について読み取らせ、グループで交流させる。</p> <p>・日本の女性は30～39歳の人が働いている割合が、諸外国と比べて低い。 ・諸外国は働く女性の割合が高い。 ・男性より女性の方が賃金が全体的に少ない。</p> <p>○指定した資料を踏まえて考えるよう支援する。</p> <p>◎比較・関連「諸外国」「男性と女性」</p> <p>○各自のまとめを生かしてグループの意見を作製させる。</p> <p>○生徒から提示された意見を板書し、まとめる</p> <p>女性の社会進出を進めるためにはどうすればよいか</p> <p>○女性の社会進出を進めるために、どうすればよいか、自分の考えをまとめさせる。</p> <p>・育児休業の促進 ・保育所の整備 ・女性の給料を上げる</p> <p>○自分なりの根拠を持って考えをまとめさせる。</p> <p>○発表した内容を踏まえて、最終的な自分の考えをまとめる。</p>
まとめ	<p>女性の社会進出を進めるための提案をまとめよう</p> <p>○授業での話し合いを踏まえて、自分なりの解決策をまとめる。</p> <p>◎社会参画</p> <p>○ワークシートを回収する。</p>

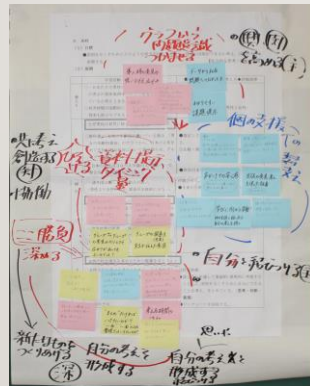


授業の流れの統一



課題提示→自分の意見→ 交流→振り返り

③ 8月29日 研修講座「学習指導」(授業改善)
事後検証



授業実践後の話し合いより

◎「主体的な学び」について

- 興味・関心を高める導入
- 自分ごととして捉えられていない

◎「対話的な学び」について

- 「つぶやき」をつなぐペア・トリオ交流
- 資料提示のタイミング・量

◎「深い学び」について

- 考えをまとめ深める時間の保障

(4)校内研修のパッケージ化について

①短時間で可能な校内研修の提案

校内研修のパッケージ化

現在、研修センターでは校内研修のパッケージ化に向けて次のような形式で作成しています。およそ45分の短時間で可能な形を各校に提供していきます。今回、報告会にご参加の皆様にご今年度の作成分をお持ち帰りいただきます。

① 今後の学習課程に活かす。
 内容 自治体の学習課程における指導や研修（学習指導、学習指導、生涯学習など）について
 時間 学級単位の1時間

時間	研修の構成
2分	ねらいの共有
15分	内容の確認 3人1組（1対1）で研修の課題を1人ずつ説明し合う。
15分	グループ対話方式で交流 ② 最初の手紙で他のグループの研修をシェアする。
5分	研修の振り返りや感想を共有する。

実施上のポイント

3人1組で行う1対1の研修で研修の課題を1人ずつ説明し合う。研修の振り返りや感想を共有する。最初の手紙で他のグループの研修をシェアする。最初の手紙で他のグループの研修をシェアする。

研修時間 40分程度

研修時間 ①入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ②入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ③入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ④入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑤入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑥入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑦入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑧入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑨入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑩入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑪入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑫入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑬入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑭入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑮入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑯入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑰入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑱入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑲入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ⑳入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉑入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉒入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉓入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉔入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉕入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉖入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉗入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉘入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉙入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉚入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉛入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉜入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉝入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉞入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㉟入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊱入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊲入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊳入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊴入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊵入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊶入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊷入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊸入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊹入3 研修の振り返りや感想を共有する。

研修時間 ㊺入3 研修の振り返りや感想を共有する。

② 教科研究や指導案設計や事後研修に活かす。
 内容 2023年度（独立行政法人教育支援機構）オンライン研修を活用して研修を深める
 時間 指導案設計・事後研修など

時間	研修の構成
2分	ねらいの共有
20分	NITS 校内研修シリーズ 「主体的・対話的で深い学び」を軸とする①
15分	指導案設計や事後研修を共有する②
5分	各グループの交流内容を共有する
3分	研修の振り返りや感想を共有する

実施上のポイント

NITS 校内研修シリーズの「主体的・対話的で深い学び」を軸とする①

指導案設計や事後研修を共有する②

各グループの交流内容を共有する

研修の振り返りや感想を共有する

研修時間 45分程度

研修時間 ① 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ② 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ③ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ④ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑤ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑥ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑦ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑧ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑨ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑩ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑪ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑫ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑬ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑭ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑮ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑯ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑰ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑱ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑲ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ⑳ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉑ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉒ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉓ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉔ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉕ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉖ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉗ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉘ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉙ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉚ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉛ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉜ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉝ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉞ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㉟ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊱ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊲ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊳ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊴ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊵ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊶ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊷ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊸ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊹ 指導案設計や事後研修を共有する

研修時間 ㊺ 指導案設計や事後研修を共有する

III. 今後の研究活動方針

授業力の向上

校内研修の活性化

検
証
授
業

②①
学 校

研
修
講
座

①短
時
間

パ
校
内
研
修
の
活
性
化

後志管内各校の
OJTに寄与できる
研修センターを目指して

平成30年度後志教育研修センター 調査研究事業報告会

学習指導研究委員会

ご静聴ありがとうございました。

平成31年1月9日

於：後志教育研修センター

